

4.4 動物

施設の存在に伴う動物への影響を把握するために、新病院の状況、環境の保全のための措置の実施状況の調査を実施した。

4.4.1 施設の存在に伴う動物への影響

1) 調査項目

- (1) 新病院の状況（配置、高さ、形状等）
- (2) 環境の保全のための措置の実施状況

2) 調査地点・地域

調査地点・地域は、計画地内とした。

3) 調査期間

調査期間は、供用開始後、適宜とした。

4) 調査方法

調査方法は、表 4.4-1 に示すとおりである。

表 4.4-1 調査方法

調査項目	調査方法
新病院の状況	写真撮影等による現地確認及び関係資料の整理 による方法とした。
環境の保全のための措置の実施状況	

5) 調査結果

(1) 新病院の状況（配置、高さ、形状等）

対象事業の実施状況に関しては、完成した新病院の配置・高さ・形状が計画どおりとなっており（第2章 2.6 参照）、予測時の条件と変更がないことが確認された。

(2) 環境の保全のための措置の実施状況

供用後における環境の保全のための措置の実施状況は、表 4.4-2 に示すとおりである。

表 4. 4-2 供用後における環境の保全のための措置の実施状況

影 響	検討の視点	評価書に記載した環境の保全のための措置	環境の保全のための措置の実施状況
生息環境の直接的改変	改変面積の低減	・既存の樹林の改変を極力抑制・低減し、動物全般の生息環境の保全を図る。	・計画地の北側には、保全すべき群落に該当するイヌシデ林が既存の樹林として存在する。既存樹林は改変しないこととした（図 4. 4-1）。 ・資料 1 は、建築物配置図及び既存樹林の改変しない範囲。
騒音の発生	発生源対策	・「10-2 工事及び存在・供用による騒音への影響」に示した環境の保全のための措置を実施する。	・「4.2 騒音」の項目における「4.2.1 5) (2) 環境の保全のための措置の実施状況」、「4.2.2 5) (2) 環境の保全のための措置の実施状況」参照。

資料 1 建築物配置図及び既存樹林の改変しない範囲

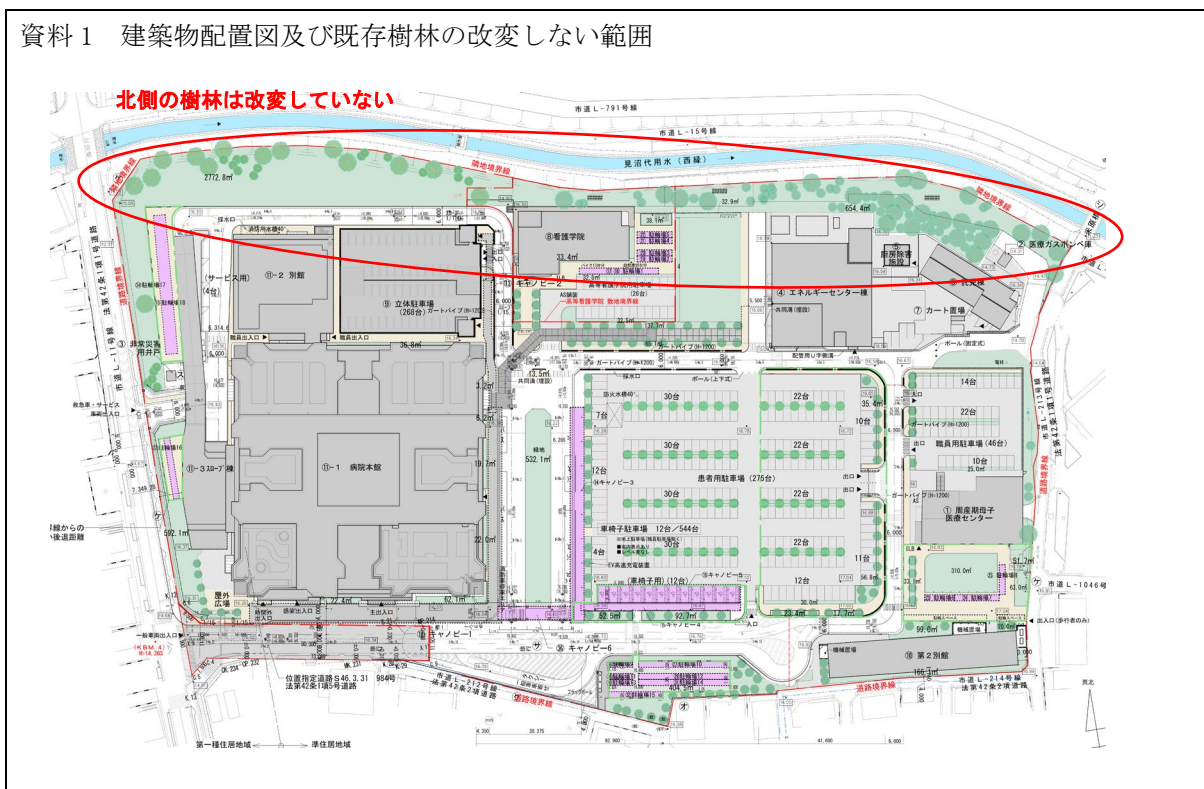


図 4. 4-1 供用後における環境の保全のための措置の実施状況資料

6) 予測・評価結果と事後調査結果の比較及びその考察

環境影響評価書の事後調査計画では、事後調査において、施設の存在に伴う動物への影響は、対象事業の実施状況及び環境の保全のための措置の実施状況の確認により予測結果の妥当性を把握することとされている。

対象事業の実施状況については、完成した新病院の配置・高さ・形状も予測時の計画どおりの状況となっていること（第2章 2.6 参照）から、予測・評価結果どおり、施設の存在に伴う動物への影響は、事業者により実行可能な範囲でできる限り低減が図られたと評価する。

また、「第4章 4.5 植物」に示すとおり、既存樹林の改変を極力抑制・低減し植物全般の生育環境の保全を図ったこと、可能な限り在来種を用いて緑化を行ったことなどから、保全すべき種及び群落の生育環境は保全されていると判断できる。そのため、動物の既存の生息環境である植生なども保全されていると判断できる。

また、計画した環境の保全のための措置はすべて実施していることから、施設の存在に伴う動物への影響は、事業者により実行可能な範囲でできる限り低減が図られたと評価する。